

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年3月27日作成)

小委員会名	温熱感小委員会	主査名：宮本征一 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：大岡龍三 主査名：都築和代
設置期間	2023年4月 ～ 2025年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの温熱感・快適性研究を踏まえ、本領域の今後の発展の促進と展開を模索する。 ・最新研究のレビューを行い、研究会、シンポジウム等を企画・開催し、適宜情報を発信していく。 ・温熱感に関わる学術規準の改定ならびに策定に関わる検討を行う。 <p>初年度：温熱環境・温熱感の最新研究のレビューを通し研究動向を把握する。 4つのWGを設置し活動する。</p> <p>2年度：各WGおよび小委員会とWGとの連携による研究会等を開催する。 関連する学術規準等を含めて情報を発信する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：宮本征一(摂南大学) 幹事：中野淳太(法政大学)、栗原浩平(室蘭工業大学) 委員：久保博子(奈良女子大学) 後藤伴延(東北大学)、齋藤輝幸(名古屋大学)、佐古井智紀(信州大学)、佐々尚美(武庫川女子大学)、高田暁(神戸大学)、都築和代(関西大学)、永野秀明(東京都市大学)、長谷川兼一(秋田県立大学)、森郁恵(産業技術総合研究所)、森上伸也(豊田工業高等専門学校)、山岸明浩(信州大学)	
設置WG (WG名:目的)	①温熱環境規準WG(室内温熱環境測定および温熱心理・生理測定法に関する規準・解説の改定、並びに室内温熱環境評価学術規準の策定に向けた検討) ②温熱環境研究情報発信WG(最近の我が国における温熱環境・温熱感に関する研究の評価と、将来の研究の方向性の見定め) ③温熱快適域検討WG(温熱中性域・快適域に関する検討結果を踏まえ、日本人を対象とした温熱快適域決定に関する考え方の検討) ④温熱環境と健康WG(最近の我が国における温熱環境と人間の健康に関する研究を概観し、人間本位の温熱環境のあり方を検討)	
2023年度予算	200,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	3回(年度内計画を含む) オンライン会議を含む
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第52回熱シンポジウム『温熱環境とウェルネス』 参加者数 123名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 昨年までのWG活動の成果を含めてシンポジウムを開催できた。
委員会活動の問題点・課題	特になし

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	(A) B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>温熱感小委員会をオンラインで2回開催した。(3月に3回目を開催予定) 今年度は熱シンポを開催することから、WG毎の温熱感研究に関するこれまでの活動を進めてもらうとともに、熱シンポの各セッションのテーマに適した講演者を選定してもらうなど、WG活動の成果が見えるように、熱シンポの各セッションの位置付けなどを議論した。オンライン会議の導入により小委員会への参加者は増えたため、活発な議論を行うことができた。各WGにおいては、各WGの目的に適した活動を引き続き活発にさせていただくこととし、以下の内容についてお願いした。</p> <p>①温熱環境学術規準WG： 室内温熱環境測定規準の改定に向け、改定項目、新規追加項目等の検討</p> <p>②温熱環境情報発信WG： 温熱環境・温熱感に関する研究の動向を把握し、社会的状況に即した温熱環境研究の方向性について検討</p> <p>③温熱快適域検討WG： 温熱中性域・快適域に関する研究を整理し、温熱快適域提案の方向性を検討</p> <p>④温熱環境と健康WG： 健康と温熱環境に関する研究について情報収集を行い、その現状と研究の方向性についての把握</p> <p>今年度の熱シンポジウムでは、上記のWGの活動の成果を広く知らしめる内容にもなっており、今後の活動を活発に行う刺激になった。熱シンポジウムでは、委員会メンバー外にも講演を依頼し、幅広い情報を共有できた。</p>

- 総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- 提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）
設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）
設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」
設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」